

関東モービルハム同好会のこと

JJ1SXA/池

今年10月18日(日)、19日(祭日)、青梅市二俣尾にある「奥多摩清流の里・おくとま路」において、第49回関東モービルハム同好会奥多摩大会が、240グループを幹事役として開催されました、参加局は、総勢29局と少なかったものの、総大将JA1RIZ/久保田OMの指揮下、スタッフの240各局の奮闘で大いに盛り上がり終了しました。

この大会の歩みを振り返って見ますと、51MHzFMを運用する局が、1968年「奥日光丸沼ミーティング」として集まり友好を深め、翌1969年には「万座温泉ミーティング」として集まり、席上毎年続けることと、「関東モービルハム同好会」と称すこと、「ミーティング」から「大会」とすることも決まり、1970年に「箱根大会」を開催したと聞いています。

その後、会を重ねていますが、1961年1月にスタートした、我が、50.240SSBモービルグループは、同年開催の第14回つくば大会から、50.240SSBモービルグループの名前で参加し、毎年有志が参加しています、そして、1986年の第19回のホスト役を仰せつかり、参加150局の「河口湖大会」として、「富士スバルランド」で開催しました。

その後、ホスト役として、1992年に第25回「よみうりランド大会」を「よみうりランド」で141局の参加で、1999年に第32回「青梅大会」を「かんぼの宿・青梅」で95局の参加で、2003年に第36回「青梅大会」を「かんぼの宿・青梅」で70局の参加で、2010年に第43回「おくとま路大会」を「奥多摩清流の里・おくとま路」で41局の参加で開催という経緯を辿り、本年「奥多摩大会」を前回と同じ「奥多摩清流の里・おくとま路」で29局の参加で開催したのです、年々参加者が減少、1回目のホスト役の時の150局参加は本当だったのかとの感もあります、宿の手配も広い駐車場を確保しなければならず大変でしたが、現在は如何に料金の安い所を確保できるかが一番の焦点です、少子高齢化の影響は、240グループに限ったことではありません、そんな中、来年は第50回記念大会だと中枢にいるメンバーは張り切っています、彼らは初期の頃はバリバリの若者だったが、今は60歳代後半から70歳代になっています、然し、まだまだ元気ようです。

色々の思い出があります、ある年は、酔っ払った局に絡まれた局と当の酔っ払い局が、10人くらい並んで寝ている両端にいて口論が始まり、間にいる局は全員笑いをこらえ狸寝入りで聞いていたなどという笑い話もありますし、おみやげでは、千葉のグループが幹事で、生きの良いサンマを配りましたが、最後は余ったサンマを欲しいだけ持って行けということで大量にもらって帰った時もありますし、幹事が茨城のグループの時、さつま芋が配られ、これも最後は欲しいだけ自由に持ち帰れということで、余分に貰い、家で食べたなら美味しく、こんなことなら遠慮無しにもっともらえば良かったと反省したり、240グループが赤白のワインセットを出した時は、特製ラベルを手作業で貼った思い出とか、携帯コンロを持ち込み真夜中にインスタントラーメンを作って食べたとか、まだまだ数多くの思い出が走馬灯のように眼に浮かんできます、240の参加初期の頃は、5/8λアンテナのモービルを10数台並べて駐車、その様は他を押し壮観でした。